

令和元年度第1回香美市ものづくり会議
議事録（要約）

日時；令和元年7月31日（水）14：00～16：00

場所；香美市役所5階委員会室3

出席者

委員；〔高知工科大学特任参与〕浜田正彦、〔香美市商工会長〕寺村勉、〔香美市商工事務局長〕吉村宏、〔香美森林組合代表理事組合長〕石川彰宏、〔㈱土佐山田ショッピングセンター代表取締役社長〕石川靖、〔高知県産業振興物部川地域本部総括〕徳永浩子、〔香美市観光協会長〕山中盛世、〔鍛冶屋創生塾運営員〕門田貴司

香美市；〔市長〕法光院晶一、〔副市長〕今田博明、〔香美市教育長〕時久恵子〔企画財政課長〕佐竹教人、〔農林課長〕西本恭久、〔商工観光課長〕竹崎澄人、〔定住推進課長〕中山繁美、〔定住推進課定住班長〕畑山和義、〔定住推進課まちづくり班〕溝渕真広、〔定住推進課〕村田理恵

（敬称略）

1. 開会（中山）

2. 会長挨拶（浜田）

3. 議事

1. 分科会の報告について

(1) 土佐打刃物

竹崎；資料に沿って説明

門田；

鍛冶屋創生塾の問い合わせは18件、11名から応募がある。応募者の内訳は、高知県5名、うち香美市2名、東京都2名、神奈川県1名、大阪府2名、福岡県1名。最年長が47歳、最年少が20歳。原則40歳までだが、応募者の強い受験希望があり受け入れた。年齢の内訳は、20代6名、30代4名うち2名が既婚者、40代1名。今8月2日に運営委員会を開催し、試験の流れを検討予定。試験日は8月18日に香美市商工会で開催し、発表は8月30日。合否は、インターネットで発表の予定だったが、全受験者に配達指定郵便で伝える。合格者は3名だが、補欠を1～2名協議をして決めたい。

(2) フラフ

村田；資料に沿って説明

吉村；

産業的な部分で、フラフのたなびく風景を作り、知ってもらい、文化の継承をするイメージで取り組んだ。以前から、風景作りは分科会でも話があったが、フォトコンテストは、ただフラフを掲揚するだけは勿体無いとの思いから開催に至った。少ない予算でフラフを知ってもらえ、フラフと気持ちを通わせるようなことがフォトコンテストを通じて出来たと思う。

次は需要喚起だが、フラフの表彰状や、高知赤十字病院ではハチロー染工場の協力の元、新しい形でフラフをエントランスに飾っている。また、楠目小学校のフラフを使った運動会が、新聞に掲載された。香美市内では、フラフの情報発信が出来たと思うが、広域では不十分なので、フォトコンテストを継続してやっていきたい。

香美市商工会では、経営発達支援計画を策定して、国から認定を受けるように進めている。去年は認定が取れなかったが、計画の中でフラフを取り上げている。フラフの需要喚起を計画し、伝統産業としてきちんと残して、後継者が入ってくるようにしたい。

(3) 物部川ブランド

村田；資料に沿って説明

石川（靖）；

高系イモは白イモで、イモケンピか焼酎しかないなと思った。イモケンピは、あぐりーどだけでなく、バリューでも試作が出来ると思う。ある程度量があるなら、別の事業所に依頼してもいい。物部の名前をつけたイモケンピを作りたい。

焼酎は、焼酎ブーム後にメーカーが苦戦していたが、バリューの売り上げを見ても焼酎の売上がじわじわ回復している。最近では、イギリスの蒸留酒でボタニカルの香りをつけた、クラフトジンが流行っている。焼酎の販売価格は、4合瓶で1,000円～1,500円だが、クラフトジンは2,000円程度で付加価値があり免許がとりやすい。芋焼酎をベースにしたクラフトジンもあるので、蒸留酒に挑戦してみたらどうか？

県内で芋焼酎の免許がある事業者は、宿毛市のすくも酒造しかない。焼酎は、米、粟、芋、など品種によって免許制度がある。すくも酒造には、原料持込から加工～最後の瓶詰めまでの見積りを依頼中。出口は、デザイナーの力も借りる必要もあるが、焼酎もやってみたい。

また香美市内の洋菓子店に原料を渡して、試作品をお願いし、高系イモのスイーツで盛り上げたい。ハチマキ豆も該当する可能性があると思う。

神池のものが集中しているが、明治時代の上葦生村エリア別の芋の生産量は、神池が一番多く、お茶もたくさん生産していた。神池には、旧大栃高校の茶畑があり農業高校が管理しているので、それを土台にお茶作りとお土産作りをしたいと、観光協会の長

瀬専務が言っていた。

昨日、山茶の加工販売をしている、いの町の国友農園に長瀬専務と訪問した。国友農園は、山に生えている自生のお茶を手摘み製茶しているが、ティーバック1つ200円。高級品だが、神池のお茶もそのランクを狙える可能性がある。山の自生のお茶を摘み炙って飲むのが一番おいしい、と神池でも山茶の話が出来た。それを製品化しているのが国友農園で、道の駅でもお茶を販売している。

(4) 分科会の方法等の検討

浜田会長；

今年度は、委員同士の異動や、委員以外にも、各分科会の目指す方向に近い方や、専門性がある方に参加してもらい活発にしたい。従来通りでも可能なので、各座長にお任せするが、座長は委員の中から選んで欲しい。土佐打刃物分科会は、土佐刃物連合組合の穂岐山理事長に入ってもらい、鍛冶屋創生塾以外にも、今後の土佐打刃物の課題や展望等を議論したい。

第一次産業の分科会はしばらく休止し、高知工科大学で実施、検証後考えたい。今年中に目処をつけていきたい。

2. 意見交換

(1) 土佐打刃物

浜田会長；

この時期に11名も受験するのは、土佐打刃物をやりたい人がいる裏付けになる。4月入学なら、希望者も多いと思う。

門田；

高校生からも2名問い合わせがあったが、開校が11月なので、再来年の募集になることを伝えた。

副市長；

香美市2名の方の年齢は？

門田；

22歳と26歳。鍛冶屋創生塾が出来る前から、6名問い合わせがあり、2名は応募、2名は就職、2名は連絡しても返事がなかった。

石川（靖）；

卒業後は香美市で仕事をするのか？

門田；

補助金をもらう方は、最低5年香美市に定住する必要がある。県外では出来ないので、香美市で産地形成を図って欲しい思いがある。

浜田会長；

試験はどんな風にするの？

門田；

応募時の志望理由書と面接でやる気を見る。土佐刃物連合組合の中に、後継者育成協議会があり、面接を依頼する予定。

寺村；

応募者はどんな感じか？

門田；

メールや郵便でのやり取りの方が多く、会った方は少ない。志望理由は、伝統工芸に興味を持ち職人志望が多いが、刃物に限定すると数人になる。

寺村；

問い合わせが 18 名だが、応募していない人の理由は？

門田；

家族がおり経済的に厳しいこと、高校生は家族と相談するなどの理由。

副市長；

開校の式典はするのか？

門田；

やる方向で考えている。

寺村；

鍛冶屋創生塾に入れない人の受け皿は？

門田；

色々意見も出たが、定員 3 名で、他の鍛冶屋にお願いはしないつもり。

浜田会長；

分科会では、鍛冶屋創生塾の建物、建築、募集、試験等の話はしていた。鍛冶屋創生塾は、土佐打刃物の人材育成のひとつの手段であり、課題や今後の展望はまた別にある。鍛冶屋創生塾が前進したら、今後の課題も議論する必要があると分科会でも話があった。

(2) フラフ

市長；

高知赤十字病院のディスプレイに関わってくれた方と交流し、都会や外国でもフラフが通用するようになれば。

浜田会長；

フラフの表彰状もいいと思う。紙の表彰状は飽きているかもしれない。ポールがあるので少し高くなるが、広告費と思えば安い。

吉村；

土佐和紙の表彰状はあるが、香美市でフラフの表彰状が定番になれば。副賞を兼ねて

作れば、予算もそこまで高くない。

市長；

こども賞受賞者の笹さんは、大宮小学校のおもてなしを受けて香美市のファンになってくれたと思う。これは大きなこと。

吉村；

分科会でフォトコンテストの副賞を検討する際、香美市に来てもらい、交流を持てる賞を考えた。

中山；

こども賞は、森田校長先生はじめ、大宮小学校のこども達がおもてなしをしてくれて、笹さんご夫婦に喜んでいただいた。

教育長；

どの学年も探求的な学びをしており、全ての教室で笹さんが喜んでいた。

市長；

フラフ事業者のメリットはまだ不明だが、こういう動きが将来に繋がると思う。山田高校では、有名人にフラフスーツを着てもらおう話もあるらしい。

浜田会長；

大学で有名人の講演をした際に、部屋に飾れるサイズのフラフに名前を入れてプレゼントしたら、喜んでくれた。少しでも宣伝になればありがたい。大量生産ではない地域の味が出るものを、どう演出するかが今後の課題。

吉村；

高知赤十字病院のフラフは、フラフと芸術家のコラボ。

市長；

デザインを持ち込み、フラフの作製依頼もあるかもしれない。楠目小学校の運動会のフラフもいい。

石川（靖）；

香北町のアーティスト・イン・レジデンスで、フラフの提供などコラボできないか？

中山；

香北町永野で、昨年11月に1ヶ月限定で開催した。関係アーティストが物部町のお試し住宅にいた関係でお世話をしたが、定住推進課は直接関わっていない。

教育長；

山田高校がフラフの新しい開発を意識して取り組んでいる。よさこい祭りの前夜祭で、正調のよさこいを踊る企画に、山田高校の生徒も参加する。前夜祭に間に合うか不明だが、お古のフラフを法被にして着用して踊るという話がある。

各学校や保育園では、お古のフラフを集めているが、既存のポールでは掲揚できないので窓から垂らすしかない。楠目小学校は、たくさんフラフを集めて飾った。学校では、「フラフのまち」の景色を意識してやっている。

(3) 物部川ブランド

石川 (彰) ;

国友農園のお茶は、東京でも販売しているらしい。高系 4 号は、ホシカにして食べていた。どこでも作れて病気にも強いが、太りすぎて割れるのが難。昔は香北町でも作り、藁製の袋に詰めて出荷していた。焼酎は、九州で芋を大量に生産しているので採算が合わない。

今の香北青少年センターがある場所は、昔は茶畑で、そこのお茶が外国の賞を受賞したことがあると聞いた。

山中 ;

高系イモは、ホシカにして、煮て食べたらいいかった。

市長 ;

お茶も方法によっては面白いものになるかもしれない。

石川 (靖) ;

国友農園のお茶は歴史的背景のストーリーがある。やぶきた茶、山茶のブレンドで味を工夫したら、いけるのでは？と国友さんが話していたので、可能性はある。お茶は難しい世界で、製茶、製品化を考えるとアドバイザーが必要だと思う。

市長 ;

製品化を考えると、お茶のおいしさを証明してくれる人が必要。お茶のおいしさの証明をする人、おいしさを伝えてくれる人をどうコーディネートするかが大事だと思う。

教育長 ;

ハチマキ豆は、数が少ないのか？

石川 (靖) ;

30 キロくらいしか作ってない。高系イモも苗が 150 本しかなく、増やす必要がある。

今後は、芋の生産者をもう少し増やしたい。神池で苗を分けてもらったので、芋の総会を神池の高板の火渡りと合わせて開催も考えている。

3. ふるさと納税分科会の立ち上げ

浜田会長 ;

ふるさと納税は以前からあるが、4 年程前から各自治体が活発に動いている。香美市も 3 年前に寄付額が 2 億円を越え、去年は 1 億 9 千万円の寄付額。ふるさと納税は、税金、交付税とは違い、ふるさとを想ってする寄付。返礼品の問題も含め、寄付をしてもらうと自治体が潤う。返礼品は、地元で根ざした品物で、産業の育成に繋がる。

商売をする場合、プロダクト (商品)、プライス (価格)、プロモーション (販売促進)、プレイス (流通) のマーケティングの 4P がある。ふるさと納税は、商品とプロモーションがあれば出来るので、これから商売を伸ばそうとする事業者はやり易い。プロモーションも大手が入っているから、自分で広告やホームページを作らなくてもいい。需要と

供給の関係のバランスが取れないと商売にならないが、ふるさと納税は、売り切れ御免で済む。自治体が商品を定価で購入し、送料込みでしてくれるので、中小企業や個人事業主には取扱がしやすい。産業育成の手段として、やっていただきたい。

本当は目標 3 億円にしたいが、総務省の規制が厳しくなり、今年目標は 2 億 5 千万円。頭を使い、且つ、広告方法を踏まえ、商売に長けた方を集めてやりたい。座長は寺村さんで、㈱三谷ミートの三谷社長、㈱三膳の有澤さんもメンバー。プロモーションが分かる人がいれば参加して欲しい。

溝渕；資料について説明

中山；

お米の返礼品は、平成 28 年度はたくさん出たが、3 割規制後は 1 万 5 千円で 10 キロ。

資料の芸西村は、1 万円で 15 キロ。芸西村と比べると割高感があり、あまり人気がない。

副市長；

お得感があれば、返礼品は出る。食べてもらうとリピーターにはなれると思うが。規制や仕入れ値の関係もある。

浜田会長；

単価だけを比べるのではなく、地域を売るというさびわけが必要。東京にないものを探す、ブランドにストーリーをつける。画一的に同じ目線で見るとはなく、地域の違いを紡いでストーリーにすることがプロモートでは大切だと思う。損得だけでは東京と同じ大量生産大量消費になり、地域は売れない。お金以外で付加価値をつけないと、今後の寄付額が伸びない。地域にどれだけの資源や価値があること、近隣の市町村と一緒に活動するなどしないと、競争が厳しくなってくる。活動を通して香美市を知ってもらうことは、ホームページ以上に効果があると思う。

石川（彰）；

ふるさと納税では、お米のパッケージが大事だと思う。

中山；

高知の人と食文化を届ける selectvege のコシヒカリ 5 キロは、1~2 人世帯が多いので結構出ている。お米は、写真、動画などの広告も考える必要がある。

浜田会長；

見せ方の工夫や、ふるさと納税のシステムはお中元、お歳暮にも使え、実施している自治体もあるらしい。自分がもらうだけでなく、寄付をすることにより、相手に届けられる。頭を使い、地域の知恵をもらい、年代関係なく少量でもいいものを集める。電子商品券は、発行自治体に行かないと使えないが、香美市近隣の市町村の人なら、バリューで買い物が出来る。飲食店でも登録すれば使える。香美市から他市町村へ行った方も沢山いるので、電子商品券の返礼品もいいと思う。

市長；

電子感謝券は商品券。1 万円の寄付で 3 千円のポイントカードがつくが、店舗に対応で

きる機械がないと出来ない。キャッシュレス化と同じなので、電子感謝券とキャッシュレス対応と同じ機械で対応できたら。返礼品をなかなか選べない場合の選択肢になり、本人以外も使えるのでいいと思う。

今後は、キャッシュレス化に向けて、ポイントカードを市民に持ってもらって行政運営になっていく。マイナンバーカードに行政がポイントを入れることが国の方針で、カードに対応できる機械も必要。

市長；

ふるさと納税の分科会の立ち上げ承認

中山；

各分科会の活動資金は、来年度以降まちづくり応援基金を活用したいと考えている。
検討委員会に提案予定。

4. 閉会